

議会だより

さくほ



第84号

2026.4.23

令和8年3月定例会



私の佐久穂のイチ押し

「茂来山と桜」

那須野 茜 議員

茂来館の駐車場からの1枚です。
昨年の選挙期間中はこの風景に
元気をもらっていました。

今号から表紙に議員が選ぶ
「佐久穂町のイチ押し」
を連載します。

目次

- P 2…定例会を終えて・町長招集あいさつ
- P 3…令和8年度予算概要
- P 4・5…総文委員会審査
- P 6・7…経福委員会審査
- P 8～15…一般質問
- P 16…議会活動・編集後記

一般質問の詳細は
佐久穂町議会ホームページ
の音声データ等でご確認ください。



過去の一般質問の内容を聞くことが
できます。

発行：佐久穂町議会
議長：須田 芳明
編集：議会広報特別委員会
〒384-0697
長野県南佐久郡
佐久穂町大字高野町569
TEL.0267-86-2556

印刷：キクハラインク有限公司

いいね
押してね

さくほ議会
Facebookもチェック



さくほ議会 🔍 検索



3月

令和8年3月5日～19日

月定例会

議長あいさつ

令和8年第2回定例会を終えて

本定例会は、3月5日に開会以来、15日間にわたり条例案14件、補正予算案8件、当初予算案9件、その他案9件、発議1件、計41件の案件について、議員各位の慎重審議により終了しました。今回の定例会は、新年度の町政運営を審議する重要な議会であり、各委員会、議員並びに執行側ともに、当初予算における建設的な議論を交わしました。

一般質問では、今回も全議員が質疑に立ち、多種多様な観点から論議を行うことができました。このことは、他に類を見ない活発な活動であり、当議会の特徴であるとも言えます。一期生議員をはじめ全議員が地域の声を聞くことの大切さを知れたのは、意見交換などの事業による成果であり、今後の町政運営に欠かすことのできないエネルギーであると感じたところです。

また、地域の平和を願う思いから議員発議による「中東地域での戦闘行為の中止を求める決議」を全会一致で可決しました。今後も地域の思いを一つ一つ取り上げていければと思います。

今議会を終え、私たち議会のテーマである「未来への改革」の実現により、地域の皆様と共に歩む「開かれた議会」を目指して参ります。

町民の皆様におかれましては、今後開催する議会報告会、意見交換会また、お出かけ議会などにぜひご参加いただき、益々のご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

令和8年3月19日

佐久穂町議会議長

須田 芳明

町長招集あいさつ **ピックアップ**

どうなる?老人保健施設。千曲病院の統合で医療介護体制の持続は、経営改善は。

当町の医療・介護体制の持続可能性を高めるため、町立千曲病院と佐久穂町老人保健施設を組織統合し、これによって、経営資源の最適化と切れ目ない医療・介護サービスの提供体制を強化していきます。「老人保健施設特別会計繰出金(赤字分)5億1千8万3千円 (H28からR7までの累積分)」

町内外の動き

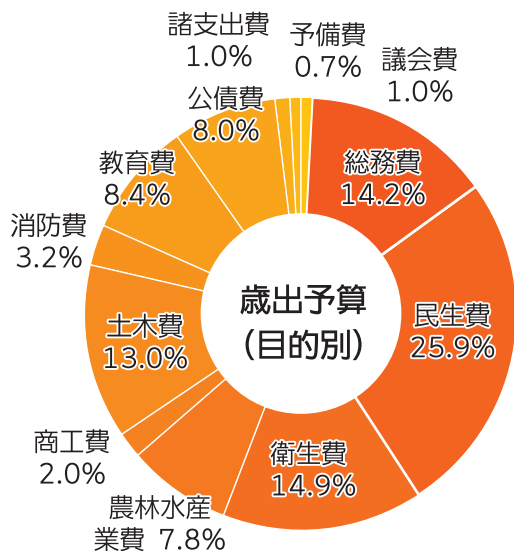
○衆議院選挙、高市自民党の圧勝、122兆3000億円を新年度予算案を国会に提出。

町政の動き

- 町立保育園のあり方に関する検討会議で当面3園を維持。統廃合については、園児数や園舎の老朽化を加味しながら検討します。
- 中部横断自動車道、長坂-八千穂間の「環境影響評価準備書」と「都市計画案」の説明会が2月に小海町、南牧村と佐久市で開催されました。未整備区間の早期事業着手に向けて、引き続き努力をしております。
- 整形外科部長の由井医師が4月初旬をめどに佐久市立国保浅間病院に移籍。当町では麻酔科医師を始めとする高度医療環境を常時整えることが、極めて困難な状況のためです。
- 賃貸住宅建設大手の会社が行った「住み続けたい街自治体ランキング2025」で、当町が全国10位にランクインしました。
- 「長野県ふるさとの森林づくり賞授賞式」が木曾町において開催され、佐久穂小・中学校の森林・林業キャリア教育の取り組みが長野県知事賞を受賞しました。
- 佐久穂小学校6年生の「租税教育」が継続的な学習と認められ、佐久税務署長から感謝状をいただきました。
- 茂来館開館20周年記念事業。しらかば社会体育館で、佐久穂町出身の女子プロレスラー野崎渚さんらを招き、「野崎渚ふるさと凱旋マッチ」が開催され400人が来場しました。

令和8年度一般会計当初予算 歳出 79億1600万円 はどう使われているか

※歳入予算など詳しくは広報さくほ4月号をご覧ください。



本年度の注目点



- 第3次佐久穂町総合計画の策定
- 行政運営の改革、出退勤管理システムの導入
- 町営住宅の民間事業者への貸付・運営委託
- 空き家対策を任務とする地域おこし協力隊員の採用
- ゼロカーボン実現に向けた補助金の導入
- 八千穂福祉センター内出張所事務の郵便局委託実施
- 海瀬保育園でのゼロ歳児受け入れ
- 福祉・介護など各種計画の策定
- 地域おこし協力隊による新規就農者育成モデルの確立
- 土づくりセンターの指定管理者業務委託
- 農地造成・農業用水路のパイプライン化

- ・第3次佐久穂町総合計画はこれから先10年間を見通した町の総合計画だよ。
- ・職員の負担軽減で宿直業務を外部委託するよ。
- ・地区集会所の改築や解体に補助金が出ます。
- ・ふるさと納税、目標1億円だよ。
- ・しらかばちゃんの商標登録を目指します。
- ・ゼロカーボン戦略を意識した政策や補助事業、LED照明の10年リースなども始めました。
- ・電力購入会社の見直しなど町全体で節電に取り組んでいるね。

千曲病院は、院内の環境整備や医療の質の向上に取り組んでいるね。老人保健施設との統合で経営努力が必要となるけど、高齢化社会のなか町民のよりどころとして頑張ってもらいたい。

たのむよ!



議員提案で

- *役場窓口に骨伝導補聴器が置かれるよ。
- *補聴器購入補助が出るようになったよ。
- *令和元年台風災害の記録が編纂されるよ。



佐久穂町議会では、「中東地域での戦闘行為の中止を求める決議」を採択しました

ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルのガザ攻撃の終息が見通せない中、アメリカとイスラエルは、イランに対する攻撃を開始しました。一方、イランもイスラエルに加え、近隣中東諸国の米軍基地にミサイルによる報復を行っています。こうした攻撃と報復の連鎖は世界経済に深刻な影響を及ぼし、原油価格高騰、物流の停滞を招き、私たちの暮らしに大きな打撃を及ぼしつつあります。

佐久穂町議会は、世界の平和と安定、国民生活を守るためにこうした戦闘行為を直ちに中止し、交渉による平和的解決に立ち戻るよう要求するものです。

総務文教常任委員会

総務課

○令和8年度佐久穂町一般会計予算

方針

1 職員の給与・共済・福利厚生・労働環境の適正管理

- ・勤怠管理システム導入
- ・行政運営改革業務委託
- ・宿直業務委託の実施

2 行政財産の適正管理

- ・町営住宅に指定管理制度を導入

3 普通財産の適正管理・活用・処分の推進

- ・町単住宅を普通財産に移行し民間事業者に貸付け

4 消防・防災資器材の整備充実

- ・地区集会所耐震診断、改修工事、解体補助の実施
- ・消防軽積載車の購入、折り畳み式簡易ベッド購入

5 地域防災計画改定

適切な選挙の実施

財産収入の新たな計上分は。

雁明団地、高野町地区、夢の森の3件を予算計上。

990万円の街灯の新設、移設、撤去経費の中の新設分は。
余地、羽黒下、平林地区において計7基を新設する予定。

問

行政運営改革業務の業務委託の内容は。民間の人事制度に精通する方が、役場内の課題を整理し、解決策を検討した資料を提示する予定。

そのほか、町営住宅等の管理条例の改正に関する条例、選挙における投票管理者等の報酬に関する条例、消防団員等公務災害補償条例、令和7年度補正予算についての説明が行われた。

こども課

方針

○令和8年度佐久穂町一般会計予算
子育て支援係
1 こどもセンターの安定運営
保育園係
1 保育の充実と保護者への支援
学校教育係

1 佐久穂教育の推進

2 GIGAスクール構想の推進

3 中学校部活動地域展開

八千穂保育園、給食室の改修工事の内容は。

4 4月より業者選定を行い、工事期間は、3ヶ月を見込んでいます。新しい給食室の完成が確認できたところで移動する予定である。

問

LED照明、エアコンなどリースの理由は。工事費とリース料を比較したところ、近年はリースのほうが安くなる傾向がある。複数年で見た場合の総額や年度ごとの予算でもリースが有利となるため、この方針を採用する流れになっている。

そのほか、子育て支援基金に関する条例改正、令和7年度補正予算についての説明が行われた。

住民税務課

○令和8年度佐久穂町一般会計予算
○令和8年度佐久穂町国民健康保険特別会計予算
○令和8年度佐久穂町住宅改修資金等貸付事業特別会計予算
○令和8年度佐久穂町後期高齢者医療特別会計予算

方針

- 1 国のシステム標準化への適正移行
- 2 出張所事務の郵便局委託と円滑運営
- 3 戸籍法改正への対応
- 4 脱炭素推進に向けた支援補助制度の導入
- 5 子ども・子育て支援納付金の創設

八千穂郵便局の一般委託料の内容は。

固定費に加え、委託業務の件数に応じて費用が増減するため、決算額は変動する。

問 ゼロカーボン推進補助金の内容は。

答 今回の予算計上は、太陽光発電は上限20万円で10件、蓄電池は1件10万円で10件、クリーンエネルギー自動車は1台10万円で10件。申請状況を見ながら、増額補正を検討する場合もある。

そのほか、令和7年度一般会計補正予算、特別会計補正予算についての説明が行われた。

総合政策課

○令和8年度佐久穂町一般会計予算

方針

- 1 第3次総合計画の策定
- 2 コミュニティによるまちづくりの推進
- 3 かわまちづくり事業の推進
- 4 空き家対策・宅地造成補助・民間賃貸住宅補助等の住宅施策
- 5 DX推進
- 6 ふるさと納税（目標1億円）の推進
- 7 予算策定時の財源確保、適正な予算執行管理、基金管理
- 8 町人会活動による関係人口の創出
- 9 脱炭素に向けた取組支援

問 かわまちづくり事業の協議会委員謝礼の内容は。

答 かわまちづくり協議会の中で勉強会を開

催したいと考えており、計上したものと。

問 地域おこし協力隊設置事業のおためし地域おこし協力隊の支援組織の内容は。

答 県内に地域おこし協力隊OBで構成される支援組織があり、実績や経験を有する方をお願いしたい。

問 大学生等地域コミュニティ活動推進事業補助金の内容は。

答 本事業は継続中であり、今年度は3つの大学の学生が参加し、企業インターンや地域企業の学習、アウトドア関連企画などを通じて地域活動を推進するものである。

問 集落支援事業の支援員の現在の人数は。

答 集落の聞き手支援員は現在7名。

問 政策アドバイザー業務委託料の金額は。

答 業務委託料は275万円で計画。

そのほか、佐久穂町辺地対策総合整備計画・過疎地域持続的発展計画の策定について、令和7年度補正予算についての説明が行われた。

生涯学習課

○令和8年度佐久穂町一般会計予算

方針

- 1 公民館基本方針「集い・学び・つなげる」に基づく生涯学習活動の推進

2 多様なコミュニティ育成による地域活性化

3 生涯学習館（花の郷・茂来館）の学習・交流拠点としての活用

4 生活課題解決に資する講座等の開催

5 多様な主体による学習活動の展開

6 予算事業の計画的推進

問 図書館費委託料の資料のデジタル化の内容は。

答 資料保存業務で、今回は佐久町公民館報縮刷版の大日向村報分である。

問 保健体育品のスポーツ協会運営補助金＋熱中症対策補助金の内容は。

答 熱中症対策として、送風機や温度計などを対象に、上限5万円・2分の1補助を予算の範囲内で実施する方針である。

問 メリアホールの電動式移動観覧席の修繕について、10年周期と聞いていたが、再び同規模の修繕が必要となるのか。

答 最も緊急度の高いものから4年間で実施する方法で、以降も同様のサイクルで繰り返していく計画である。

そのほか、令和7年度補正予算についての説明が行われた。

経済福祉常任委員会

産業振興課

○令和8年度佐久穂町一般会計予算

方針

- 1 農地の荒廃化防止
 - 2 プルーンブランド化事業、特産品開発支援
 - 3 土づくりセンターの指定管理者委託
 - 4 林業創生戦略に基づく町有林の更新一環施策の推進
 - 5 森林環境譲与税等を活用した官民連携による森林整備
 - 6 森林経営管理権集積計画策定に向けた意向調査
 - 7 商工業事業者支援
 - 8 広域的な観光情報の発信
 - 9 別荘事業の安定的な維持管理運営
 - 10 しらかばちゃんの商標登録事業
 - 11 民間団体と連携した登山整備事業
- 問** 花卉装飾事業について、花を配送する対象となる事業者はどのように選定しているのか。
- 答** 商工会から選定された事業者にアンケートを行い、希望者に花の配送を行っている。商工会に所属していない事業者への広報については、今後検討していく。

問

しらかばちゃんが商標登録されることによって、使用に制限はかかるのか

答 申請していただければ今までと同じように、要綱に基づき借用できる。

そのほか、企業誘致条例の適用期間を延長する条例改正案、林業総合センターの指定管理者を南佐久北部森林組合に指定する議案、令和7年度補正予算についての説明が行われた。

建設課

○令和8年度佐久穂町一般会計予算

○令和8年度佐久穂町住宅地造成事業特別会計予算

○令和8年度佐久穂町簡易水道事業特別会計予算

○令和8年度佐久穂町農業集落排水事業特別会計予算

方針

- 1 町が管理していた簡易水道等の維持管理を、民間企業に委託
- 2 簡易水道事業特別会計と集落排水事業特別会計はおおむね現行通りの計上

3 柳沢・蛇石地区の遊休荒廃地の農地造成事業

4 農業用水のパイプライン化事業

5 防災重点ため池の緊急整備事業

6 町内102橋の橋梁点検

問

以前から要望が上がっている県の河川改修工事の進捗は。

答 令和元年東日本台風の被害の大きかった余地川と抜井川に関して、県建設事務所には改修の要望を行っている。県からは、緊急性のある場所から部分的に着手しているとの回答を受けている。

北沢川上流は町が管理しているので、緊急浚渫事業債を活用して整備を行っていく。

問

今後も農業集落排水を維持するのか、それとも浄化槽に切り替えていくのか

答 耐用年数を過ぎている施設もあるので、今後人口や世帯数を見ながら、合併処理浄化槽へ切替えていく等の判断を行う、町としても大きな課題としてとらえている。

そのほか、令和7年度補正予算についての説明が行われた。

健康福祉課

○令和8年度佐久穂町一般会計予算

○令和8年度佐久穂町介護保険特別会計予算

方針

- 1 第2次佐久穂町総合計画基本構想の実現
 - 2 第3期佐久穂町地域福祉計画策定
 - 3 第10期介護保険事業計画立案
 - 4 町内6施設の照明を蛍光灯からLEDに切り替えるためのリース契約
 - 5 就労的活動支援コーディネーターを導入し、高齢者の働きやすい環境を作る
- 問** 町が行う補聴器への補助金の詳細は。
- 答** 身体障害者手帳が交付されている方や、補聴器が必要と診断された軽度・中度難聴者の方、18歳未満の方を対象とした購入費の補助がある。

問 地域おこし協力隊については今後も導入を継続するのか。

答 今後も導入を検討していきたい。また、現在いらっしゃる地域おこし協力隊の方にも町内での定住や活動の継続について話し合いを進めていきたい。

そのほか、福祉医療費給付金の対象範囲を広げるための条例改正案、令和7年度補正

予算、佐久穂町老人福祉センター・佐久穂町デイサービスセンターの指定管理者を佐久穂町社会福祉協議会に指定する議案についての説明が行われた。

町立千曲病院

○令和8年度佐久穂町病院事業会計予算

方針

- 1 地域の人に信頼され愛される町立病院を目指す
- 2 ニーズに合った質の高い医療提供やサービス提供による患者満足度の向上
- 3 CT等の放射線機器の更新および施設整備
- 4 人員配置の見直し等による体制整備
- 5 周辺地域や福祉・介護分野との連携推進
- 6 佐久穂町老人保健施設との統合による体制整備

問 統合した老人保健施設に関する方針は。

答 まずは現状の厳しさを把握することに努め、人員配置の見直しや研修等の参加によって実情に即した体制へと調整を行っていく。

問 修繕費は今後も支出の多くを占める傾向が続くのか。

答 前回の大規模工事が終わって10年経つため、修繕するべき箇所が出てきている。修繕費用としては8年度と同規模の支出が2、3年続くと考えている。

そのほか、統合にともない職員定数を増やす条例改正案、病棟の個室料金の見直しを行うための条例改正案、令和7年度補正予算についての説明が行われた。

老人保健施設

町立千曲病院との統合のための条例改正案・廃止案4件のほか、令和7年度補正予算についての説明が行われた。令和8年度の予算は佐久穂町病院事業会計にて執行する。

○令和7年度佐久穂町老人保健施設特別会計補正予算

問 180万円近くの滞納金については、今後も支払いのお願いをしていくのか

答 令和8年度以降は千曲病院として督促を行い、支払われた金額は病院事業会計として計上されることになる。

一般質問

3月定例会では、議長を除く11名の議員全員が一般質問を行いました。このページは各議員の質問と執行側答弁の抜粋です。なお、今号より県内の多くの市町村に合わせ、質問・答弁とも常体（である調）での表現としました。

3月定例会一般質問（令和8年）

手応えを感じている事業は

町長「農業用水路パイプライン化事業である。」

石井 正行 議員

ゲートキーパーの必要性は

町長「児童生徒の自殺者が過去最多となり、自殺対策事業へと展開中である。」

高見澤 利博 議員

火災による被災者への支援は

町長「社会福祉協議会と連携した体制を整えている。」

市川 高志 議員

観光PR・情報発信の戦略は？

町長「利用者に的確に情報を届けることが重要である。」

小池 学 議員

佐久穂町人会について

町長「町を活性化させること、これが一番の目的となる。」

那須野 茜 議員

佐久穂町ゼロカーボン戦略

町長「地球温暖化ガス実質ゼロは、みんなの協力がなければ実現しない。」

櫻井 ふづき 議員

健診受診率に満足できるのか

町長「受診率向上に努力する。」

竹内 達朗 議員

物価高騰下、子育て支援の施策は

町長「現状支援の評価は高い。継続性を軸に、経済・相談支援を両立。」

友野 博文 議員

中山間地の農業を守り育むには

町長「自給率向上のための国の方針を注視する。」

佐々木 信幸 議員

通学路の安全対策は

町長「点検と対策は、佐久穂町通学路安全推進会議で実施している。」

高見澤 敏幸 議員

中間教室の支援員を増員しては

町長「現状3名に増員したのでR8年度の予定はない。」

高見澤 春野 議員

手応えを感じている事業は

石井 正行



町長 農業用水路パイプライン化事業である。

ゲートキーパーの必要性は

高見澤 利博



町長 児童生徒の自殺者が過去最多となり、自殺対策事業へと展開中である。

三期目町政一年の総括について

町長の自己評価は。

町長 手応えを感じている事業というところ、農業用水路のパイプライン化事業である。何としても国庫補助事業としては認められてこなかったが、県職員の方や、うちの職員の努力によって、この国庫補助が成り立ったことは大きな成果である。



問 町政運営の中で、課題としてきた点は。
町長 行財政の効率化を図り、デジタル技術を活用しながら、若者の定住促進や農業、商工業、観光振興、医療福祉、子育て支援など、地域課題に対応した施策を重点的に実施してきたものである。

問 千曲病院と老人保健施設の統合にどのような効果を期待するか。

副町長 民間事業者の引受け等は望めない状況にある。これを踏まえて、時代の変化をとらえ、改革を進める千曲病院にならない、いかに時代の変化に対応し、生き残りを図るかが、今回の方針・目的である。

問 どのような医療介護サービスのメニューがあるか。

副町長 医師、看護師、リハビリ職など、病院の医療資源を老健側にも生かすことで、より安全で質の高いサービス提供が可能となる。事務や設備の統合による効率化、職員の専門性向上、人材確保の強化など経営面でも大きな効果が期待できる。

今後の町政運営の基準について

問 選択と集中という考え方は。

町長 目の前の課題を職員と共に一つ一つ取り組んでいくことが重要である。

令和八年度当初予算の考え方について

問 どのような基本方針で編成したのか
町長 第二次佐久穂町総合計画基本構想に掲げる町の将来像、自立し多様なコミュニティが人々の暮らしを支え挑戦や行動を支援するまちの実現を基本理念としている。

佐久穂町当初予算基本方針

第二 佐久穂町総合計画基本構想に基づく

- 自立したコミュニティ
- 暮らしを支える基盤
- 挑戦と行動を支援



心の健康支援の考えは

町長 我が国の令和6年は、児童生徒の自殺者が過去最多となり、10代の死亡原因の第1位が自殺である。町としても予防の重要性が議論され、重層的な自殺対策事業へと展開中である。

問 町としても希薄になった繋がりを、なぐ取り組みを推進するべきでは無いか。

健康福祉課長 町では、養成講座の参加募集を町民全体に呼び掛けをおこない、民生児童委員や役場職員にも受講していただき、悩みを抱える人に周囲が気付き・声掛け・耳を傾ける・適切な支援につなげるなどの役割を期待しているところである。

減らない不登校の取り組みは

問 個々のニーズに沿った対応をどのように推進しているのか。

教育長 不登校は特別な事象ではなく、どの児童生徒にも起こりうる身近な課題と認識している。学校・家庭・社会が不登校生徒に寄り添い、共感的理解と自己肯定感を高め信頼関係を構築していく過程で社会性や人間性が養われ社会的自立に繋がることを考え推進を図っている。

問 社会が変わりゆく中で、子ども達との向き合い方は。

教育長 不登校が生じない魅力ある学校づくりから始まり、個々の児童生徒に合った支援を講ずる事、支援に当たっては急がせない、比べない、大人の思いを押し付けないことが大切と考えている。

こども課長 魅力ある学校づくりとして、独自の英語カリキュラムや職業体

験・森林体験など取り入れている。また、3日以上欠席した場合は、教頭や担任が家庭に連絡を取ることを徹底している。

問 中高生のオーバードーズに対する予防対策は行っているのか。

教育長 背景には強いストレス・不安・孤独感・気持ちを麻痺させたいなど、心理的苦痛への対処行為として現れることが多いと言われている。

予防対策としては正しい知識、安全な薬も量を間違えると危険であり、依存性があること。私ども中学校においては、年に1回7年生、8年生を対象に町内の薬剤師や交番所長による薬物乱用防止教育を行っている。

問 国からの給食費負担軽減において、不登校生徒や重度のアレルギーといった事情で給食が利用できない世帯に給付をするべきではないのか。

教育長 国による給食費無償化の仕組みは、保護者個人への現金給付ではなく、公立小学校の設置者である市町村への財政支援であるとの認識をしている。

こども課長 佐久穂小中学校の共同調理場では、栄養教諭や調理員によるアレルギー食への対応を精力的に行っており、お弁当持参をしている児童生徒は現在いない。



授業風景

火災による被災者への支援は

市川 高志



町長 社会福祉協議会と連携した体制を整えている。

し、生活の安定と早期の立ち直りを支援することを目的として佐久穂町災害見舞規則に基づき見舞金の交付を行っている。

健康福祉課長 緊急的な初期対応としては火災直後、一時的な避難場所の提供や社協の協力を得て緊急生活物資の支給を行っている。

高齢者等が被災された場合は、担当部署等と連携し可否確認や精神的なケアを含めた個別の支援を行う。

総務課長 町営住宅の空き部屋を移住者に活用するという御提案についても、指定管理者は他市営住宅を移住者専用の住宅として満室経営で成果を上げている事業者である。

町長 町営住宅共有地の管理方法と説明はどのようにしているのかについて。

総務課長 町営住宅入居者のしおりを示し、町営住宅は入居者が共同生活を営む場所でも共用部の降雪時の雪かき、草刈り等は入居者同士で協力して行うようお願いしている。

検討の結果について

して進める必要があり現在人選している。

町長 災害型自動販売機の設置は。指定緊急避難場所の管理は。消防団事務移管は。危機管理課の創設は。

町長 自動販売機は2か所から町の要望で3か所に増設。管理は担当課には指示している。事務移管は佐久広域消防が現状では困難だと解答された。課創設は財政的にも人員的にも困難である。

町長 愛宕公園の管理手法と今後の展望は。

町長 現時点で公表できる内容はないが方針だけでも定まったら議会にも随時お知らせする。

町長 消防本部より専用パソコンへ連絡が入電すると防災行政無線による放送を実施し、町の緊急メール配信システム及び公式LINEでお知らせしている。

同時に消防団では、消防団内部へ情報共有しグループLINEを活用して現場では団長が消防署と連携し指揮をとる。

総務課長 町長答弁の補足として、住宅火災の場合や人身被害または大きな災害では町長、副町長、総務課長が現場へ急行し状況確認及び対応にあたる。

管轄の分団が一定時間巡回を行い再燃の有無を確認するなど、再燃防止と安全の確保に万全を期している。

町長 町は火災による被災者の支援ではどのような事を行っているのか。

町長 被災された町民の皆様に対して

生活再建の支援は消防署の調査と連携し災害見舞金等の支給や住む場所として、町営住宅や高齢者生活福祉センターふるさと等の入居支援をしている。

町長 町営住宅の空き部屋を移住者に活用する考えはあるか。

町長 民間事業者に入居者募集を含めた管理運営を委託等をして民間のノウハウを生かしたその効果には期待している。

産業振興課長 誘致に関する相談件数は3件。県内への事業所設置を検討している企業情報があれば、県から町に随時情報提供がある。

農地集積には専門的知識のある人材をコーディネーターとして雇用

生涯学習課長 今後の愛宕公園の活用方法が明確になった時点で検討する。



荒れた公園とやまぼうし

観光PR・情報発信の戦略は

小池 学



町長 利用者に的確に情報を届けることが重要である。

佐久穂町人会について

那須野 茜



町長 町を活性化させること、これが一番の目的となる。

問 観光PRの現状は。

町長 情報を戦略的に発信していく事が重要である。

紙媒体に加え、ホームページやSNSを駆使し、幅広い層へ情報が届くように心がけている。また、ビジュアルセンターを活用し、民間事業者のノウハウを使いながら、より効果的な魅力発信を行っている。

問 公式キャラクター「しらかばちゃん」の位置づけと活用方法は。

町長 町主催のイベントや広報のアイコンとして町民に親しまれている。

民間事業者の無償でのデザイン使用を、要綱に基づき認めており、多くの皆様に利用していただくことで、町のPRや事業者の収益につながっていると認識している。

産業振興課長 しらかばちゃんを使った観光情報PR業務を民間事業者に委託しており、SNSや町内イベントへの出演を通して町の情報発信を担っていただいている。広く活用していただいているおかげで、多くの皆様に愛されるキャラクターへと育てていただいた。今後も積極的に活用していただき、町や事業者の魅力発信につなげていく。

問 公式SNSを観光PR・情報発信の柱として考えているか。

産業振興課長 町の認知度向上を図り、誘客や移住促進、関係人口の創出を目的としていることから、観光PRの柱のひとつとして認識している。

と認識している。

SNSを駆使した情報発信には民間事業者の知見やスキルが必要と考えており、目標達成に向け、官民連携を進めていく。

問 民泊などの宿泊体験型施設が増加し、地域の伝統文化やライフスタイルに触れる観光が人気を集めている。こうした状況で、町全体での分野をまたいだPR戦略が必要だが、そのための体制づくりができていくか。

町長 ホームページを軸とし、目的や用途に合わせた確に情報を届けるため各種情報サイトの運営が、町全体の魅力を発信するという目的にもかなうものと考えている。

分野を横断した情報発信ができていくかを常に注視し、必要に応じて課をまたいだ連携を図っていくよう検討する。



道の駅 しらかばちゃんオブジェ

問 町人会の一番の目的は何か。

町長 町外に住んでいても、佐久穂町と継続的・能動的に関わる人々や関係人口を増やすことで、町を活性化させていきたい。また、都会の有する優秀な人材を都会と共有できないかが、一番の課題だと思っている。

問 会員数等の目標は数値化されているのか。

総合政策課長 目標の数値化はしていない。令和8年中ぐらいには100名を超えたい、何年か後には500名を超えたいという夢はある。

問 会員になるメリットは。

総合政策課長 現状のメリットはメール配信や会員限定交流イベントミーティング、企画のアンケートなどに参加できること。今後会員数の増加とイベントの強化とともに、町内事業者への周知をして、会員のメリットも増やしていければと考えている。

問 現状の課題と展望は。

総合政策課長 課題はイベント参加率の低さ。交流先となる町内の皆様と趣旨を共有し、魅力的な企画をつくってきたい。また、総務省が創設する、ふるさと住民登録制度も視野に入れている。

問 開催イベントの現状は。

総合政策課長 今までにリングの葉摘み体験、ファーストミーティング、料理教

室と講演会、山菜を楽しむイベント、東京ミーティングを開催した。まちめぐりなど、町外の方が関心を示しそうなイベントも企画したい。

問 クラウドファンディングでは目標寄付額二五〇万円に対し、実際の寄付額は八万三〇〇〇円にとどまった。この原因と今後の展望をどう考えているのか。

町長 原因は趣旨には賛同をいただくものの、実際に寄付までには結びつかなかったということだと思っている。今後もクラウドファンディングを継続していく予定は今のところないが、会員の方からの声が上がれば、ぜひまた試みたい。

問 町内における広報活動の予定は。

総合政策課長 パンフレットは都内イベントを中心に配布してきたが、道の駅ビジュアルセンターにも置かせてもらえるように協議を進めたい。町民向けの活動報告会について予定はしていなかったが、町民の方にも広く知ってもらう必要がある。町外の家族に広まるという利点もあるので、活動報告会などこれから検討し、やっていく方向で考えている。



寄付金を活用した料理教室

佐久穂町ゼロカーボン戦略

櫻井 ふづき



町長 地球温暖化ガス実質ゼロは、みんなの協力がなければ実現しない。

佐久穂町子ども計画の進捗状況について

問 子育て支援の情報共有は円滑におこなわれているのか。

教育長 環境が変わっても、子どもの育ちそのものは途切れないという前提に立ち、特に年度初めには、関係者でコンプライアンスに配慮しながら、情報共有のうえ支援している。

子ども課長 「オンライン支

援事業」は、全園児一人ひとりを対象に、保育園・子ども課・健康福祉課・学校・子どもセンター・東信教育事務所・小諸養護学校・さく発達支援センターと情報共有し支援している。また、「子育て支援拠点事業」では、乳幼児を養育する家庭・保護者が気軽に相談できる場の提供と、関係機関との橋渡しも目的としている。

佐久穂町ゼロカーボン戦略について

学童クラブは、家庭や学校とは異なる「第三の居場所」として引き続き運営する。

問 周知のしかたは。

町長 広報・ホームページの他、紅葉祭・病院祭・文化祭にイベントブース出展・町内事業者との意見交換会を行った。現在、マンガを使って解説するパンフレットの作成中である。

問 公共施設の蛍光灯のLED化・公用車一台を電気自動車に変更・高気密高断熱などの省エネ建築の推奨・ゴミの削減等様々な分野で脱炭素の取り組みを行っている。

問 太陽光発電PPAについては。

総合政策課長 省エネ電力であり、配電網利用料や賦課金がか

からないメリットがあるが、構造や契約の難点を検討し、町の公共施設に導入可能か考えている。

個人宅にも、令和8年度から補助金を出すことを検討している。

問 循環型の森林整備の考察は。

町長 当町の全森林中59%が人工林で、多くをカラマツが占めている。「林業創成戦略」で、森林の多面的機能の保全や再造林を進めていくつもりだ。

問 なぜカラマツなのか。

産業振興課長 成長も早く安定的なCO2吸収が計画できる。また、近年建築用材として需要も高く、平均価格が杉やアカマツを上回る。林業事業者にとって採算もとれ、雇用創出も期待されることから林業振興を図ることが、ゼロカーボン戦略につながるものと考えている。

健診受診率に満足できるのか

竹内 達朗



町長 受診率向上に努力する。

物価高騰下、子育て支援の施策は

友野 博文



町長 現状支援の評価は高い。継続性を軸に、経済・相談支援を両立。



「佐久穂町ゼロカーボン戦略パンフレット」より

敬老事業の見直し

問 敬老会を実施しない地区には不公平感がないか。年度ごとに事業の結果を検証しているのか。今後の見直しの考えは。

町長 高齢者に感謝の意思を示し、緊急時に地域で支え合う共助を目的としている。財政状況や近隣の動向などを踏まえ見直しも必要。

健康福祉課長

地区により実施の有無や内容に差がある。事業結果の体系的な検証は行っていないが、参加状況、開催方法などを整理し、実効性ある事業運営につなげたい。

住民参加の健康管理

町民の健康管理

問 健診受診率は年々向上しているが、厚生労働省の統計と比較して満足できるものか。

町長 がん検診の受診率は100%正確に把握することは困難。特定健診受診率は6年度、53.9%と県平均を上回っている。

健康福祉課長

更なる受診率向上のために努力する。

住民参加の健康管理

問 健診とりまとめを郵送から対面に復活する考えはないか。

町長 平成27年に地域健康づくり員は保健推進員に統合された。毎年数名の男性が保健推進員の活動をしている。高齢化

で役員選出が困難となり、県内でも活動を終了する市町村が増えている。

健康福祉課長

戸別訪問でのとりまとめは負担が大きく、個人情報保護の面から郵送に変更した。

がんリスク検査への助成

問 死亡原因の多くをがんが占めている。がんリスク検査費用の一部補助の考えはないか。

町長 マイクロRNAを検知する仕組みで期待され、精密検査等は絞られ費用対効果があると予想される。

健康福祉課長

全国的な動向を注視し調査研究を行う。一部助成については国、県、近隣市町村の動向を参考にする。



千曲病院健康管理部にご相談ください

職員の服装軽装化

問 佐久市では、令和6年4月から「フーネクタイ、ノー上着」を実施している。当町でも検討できないか。

町長 働きやすい服装での勤務を周年化する動きが予想される。県町村会の取り組みを注視し、実施時期を検討する。

町の子育て支援の現状

問 状況把握と物価高騰の影響の分析は。

教育長 物価高騰の長期化で子育て世帯の生活・教育費負担が増し、必要支出の削減も難しい状況である。経済支援に加え、子育てや孤立防止の相談支援も重要であり、そのための実態把握が不可欠である。町は令和6年度に保護者アンケートを実施し、関係部署が連携して必要な支援が届くよう現状把握に努めている。

問 取組んでいる支援の実効性は。

こども課長 町は妊娠期からの各種助成や保育料・給食費の全額軽減、相談支援などを継続的に実施し、負担軽減に努めている。令和6年度の保護者アンケートでは肯定的な回答が79.4%となり、支援の成果を示している。

問 取りこぼしが起きやすい層の対応は。

教育長 子育て家庭への給付は必要な方に確実に届けることが重要。未認知や申請負担による取りこぼしを防ぐため、プッシュ型給付を導入し、支援の行き届く体制づくりを進めている。

こども課長

出生・転入時の個別案内や未提出者への連絡、健診未参加者へのSNS通知などで、支援の行き届かない家庭への対応を行っている。

問 町独自の支援拡充の可能性は。

町長 子育て支援は一過性ではなく継続して届く形が重要であると考えている。

令和8年度予算に物価高対応の新規給付は計上していないが、今後も継続性を重視しながら子育て施策に取り組む方針である。

問 若年層の動向の分析は。

総合政策課長 令和6・7年度の転出者は20代が最多で、理由は就職・転勤や結婚・進学が中心。従来からの傾向であり、若者の挑戦として前向きに捉えている。

新支援、こども誰でも通園制度

問 取り組みの根本的な考え方は。

教育長 乳幼児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）は、国の方針に基づき令和8年度から本格実施される新たな保育支援であり、就労要件を問わず一定時間保育園を利用できる制度である。町でも計画に位置づけ、要綱を整備している。従来の一時預かりと異なり、子どもを育ちを中心に据え、すべての子どもと家庭を継続的に支える環境整備を目的としている。

こども課長

対象は、生後6か月から満3歳未満で、普段保育園や幼稚園を利用していない乳幼児である。町では利用枠を3名、1人あたり月10時間までとしている。家庭以外の場で子ども同士が触れ合い、保育士との関わりを通じて新しい経験を積めるよう、この事業を進めた



中山間地の農業を守り育むには

佐々木 信幸



町長 自給率向上のための方針を注視する。

中山間地の特性を生かした農業振興を

問 農地を集約して大規模化・効率化を進めるのが国の方針だが、佐久穂町のような中山間地では担い手農家への集約は進まず生産者の減少に歯止めがかからない。令和5年のアンケート調査では約7割の農家が後継のめどがたっていない。規模拡大より、今ある農家を

支援し次世代への継承を第一に考えるべきでは。

町長 全国自治体で策定された「農地利用地域計画」によれば約3割の農地で担い手が決まっていない。全国の米の経営面積の約4割は中山間地域であり、今後持続可能な営農のあり方が課題と思う。手間暇かけた農産物が適正な価格で取引される、生産者・消費者

費者のお互いの理解が重要だ。

問 町内には新しい農業経営や農法を試みている人がいるが、その内容を審査して補助金を出すような町独自のチャレンジ支援制度をつくれぬか。

産業振興課長 町には「コミュニティ提案型町活性化事業補助金」があるのでまずは活用を検討してほしい。

問 これは上限20万円で規模が小さい。もう少し増額が必要だ。

小規模・兼業農家の継続に支援を

問 町の農家の約8割は兼業農家で、この人たちが米を中心とする中山間地の農業を支えている。農業はただの産業ではなく生活や文化であり、主食を自給自足出来るということはこれから大変価値のある事になってく

る。小規模・兼業農家の存在に對して町はどう考えるか。

町長 当町の農業は多様な担い手によって支えられ、美しい田園風景や水田の多面的機能が保たれている。小規模・兼業農家の方々も県やJAと連携して支援していく。

産業振興課長 町独自の新規就農者支援事業補助金があるので活用してほしい。

問 集約化とは逆にみんなが少しずつ農業に関わり農業を楽しむまちづくりを考えてはどうか。具体的には遊休農地を活用して区画貸しの町民農園を作り、農業に親しめるようにしたいと思うが、近隣では佐久市・御代田町などが、宿泊施設付貸農園を整備し、盛況で希望者が順番待ちの状態だ。

産業振興課長 全国でもそのような動きがあるが、造成費や管

理運営またニーズなど不明な点が多く、現時点では考えてはいない。まずは、農地の貸し手と借り手のマッチングを進めたい。

ジビエを活用して産業の振興を

問 当町では年間約1200頭の野生の鹿が駆除されているが、すべて埋設処理されている。それを資源と考えて加工施設などを整え民間活力で産業として育てることも可能ではないか。

町長 それを行う民間業者が現れるかが課題だ。

問 意欲あるプレイヤーも必要だが、やってみたいと思うステージも必要だ。受入体制を作るのが行政の仕事では。

産業振興課長 資源としては豊富な量なので、積極的に情報発信して事業者が現れば進めていきたい。

通学路の安全対策は

高見澤 敏幸



町長 点検と対策は、佐久穂町通学路安全推進会議で実施している。

中間教室の支援員を増員しては

高見澤 春野



町長 現状3名に増員したのでR8年度の予定はない。

中学校部活動の地域展開について

問 令和7年度の合同部活動の活動状況と生徒の受け止めはどうか。

教育長 8種目9クラブ153名が参加しており、生徒からは概ね好評である。佐久穂中学校単独では野球、女子バレー、ソフトテニス、スケート、卓球、吹奏楽、美術の7種目に146名が参加している。

問 令和8年度はどのような方針で地域展開を進めていくのか。

教育長 現在の休日の地域展開を継続しつつ、受益者負担、送迎、地域指導者の確保、連絡体制、集金に必要なアプリケーションシステムなど、令和9年度に向けた課題と方向性をより明確にしている。児童・生徒・保護者・指導者・地域の理解を得ながら、見直しをもって事業を展開していく。

問 文化系部活動の進捗状況はどうか。

教育長 南佐久での文化系部活動は吹奏楽部と美術部がある。吹奏楽部では、東信A地区中学校吹奏楽交歓演奏会に、合同練習を4回行い4中学校合同で出場した。令和8年度以降の活動はまだ具体的には決定していないが、同演奏会には4校合同で参加したいと考えている。生徒や楽器の移動運搬、選曲、パート決めなどの課題も明確になり、次年度に向けた大きな一歩となった。

新校開校に伴う、通学路の安全確保について

問 大日向中等教育学校の開校に伴う通学路の安全対策は怎么样了か。

町長 通学路の安全点検と対策は佐久穂町通学路安全推進会議で行っている。開校に伴い南佐久大橋について佐久穂小学校、大日向中等教育学校、警察、教育委員会が調整会議が開催された。高校生の自転車利用もあるため、車両への影響も踏まえた安全確保が必要であると考えている。

建設課長 南佐久大橋については、佐久穂小中学校の開校時から複数回、課題箇所として検討してきた。今回の調整会議では、進行方向に向かって右側の歩道を歩くこと、自転車は降りて同じく右側を通行することを申し合わせた。

千曲病院横の町道は、急勾配のカーブで歩行者が危険を感じているが、道路構造上ガードレールの設置ができない。この区間では舗装修繕工事の計画があり、その中で車両の速度抑制の対応を検討しているが、先行して標識の設置を準備している。

千曲病院入口交差点の斜め横断歩道の設置については、令和7年度の安全推進会議で検討した結果、歩行者保護の歩車道境界ブロックやガードパイプとの兼ね合いから慎重にすべきとの結論に至った。



南佐久大橋

支援が必要な子どもの教育環境の充実

学校内での現状と取組み

問 特別支援教室の教職員の研修等は。

教育長 現在の大学等での教育課程では、特別支援教育は必須となっている。本年度中学校の特別支援学級の担当教諭は3名とも特別支援教育コーディネーター研修を受講している。

問 合理的配慮の現状と課題は。

こども課長 視覚補助、少人数学習の導入、宿題等分量の自己調整のための声かけなど個々に応じた配慮をしている。町費で多くの講師採用とし、見守る体制は大きな配慮だと考える。なお、個別の支援計画、指導計画に照らし、支援会議を学期ごとに設けている。

問 相談室が増えたことでの変化は。

教育長 以前のパソコン教室開放から現在は低学年棟の空いている教室に変えたことで過ごしやすい子どもさんがいる。

問 スクールカウンセラーの現状は。

教育長 子どもの対応に悩む保護者の相談にも応じ、家庭での関り方の助言をしている。佐久穂小中学校では月3回程度来校頂き相談支援に当たって頂いている。

問 インクルーシブ教育の課題は。

教育長 教職員の専門性向上と人的体制の確保、多様な教育的ニーズに対応するために継続的な研修、支援員等の適切な

配置で合理的配慮の具現化、学校・保護者・教育委員会が丁寧に関わり合いを図る必要がある。

中間教室の現状と今後の取組み

問 個々の現状が違つので支援員増員を考えては。

こども課長 発足当初の1名から令和6年度1名を増員し男女1名づつの配置とした。令和7年度に1名増員し3名で教室の運営に当たっている。他にも多くの教職員が気を配り、多くの目で見守り支援をしているので令和8年度の増員の予定はない。

問 家庭が一番安心できる場所となる為の家族のケアが必要では。

こども課長 中間教室に通所する児童生徒の支援とともに保護者の方へ寄り添うことは非常に重要だと認識している。令和6年度から中間教室では児童生徒の全世帯を対象に保護者面談を行っている。お聞きした内容によっては必要な関係機関にもつなぐようにしている。

問 中間教室での給食の実施の考えは。

教育長 中間教室での昼食の様子は三つ程、一つ目は学校へ行って希望する場所、二つ目は午前中のみで帰る、三つ目はお弁当を持参する。学校に気持ち促す目的をもって対応している。

こども課長 不登校の児童生徒には画一的な対応はない。学校との橋渡しとして現状の体制を維持したいと考える。

議会活動等

1月20日

広域観光の可能性を認識しました

佐久広域連合主催で広域観光の可能性を探るフィールドワークショップ報告会が開催されました。現状の課題として、情報発信や公共交通の不足が指摘され、地域の魅力を認識する事や、ターゲットに合わせた発信の重要性が議論されました。ワークショップに参加された方たちの成果も共有され、広域観光における今後の方向性が確認されました。

1月22日

双方の工夫について話し合いました

小海町議会との合同研修会にて、議会改革の現状や課題、議会報告会や議会運営の工夫、住民との対話、議員の役割など多岐にわたるテーマについて互いに質問し学び合いました。また、各議会が抱える悩みや日頃の課題、工夫について率直に語り合う意見交換会も行われ、双方の理解と協力が深まりました。



2月3日

部活動の地域展開について学びました

佐久市議会との合同研修会が開催され、自治体連携による部活動の地域展開について渡邊教育長の講演が行われました。南佐久地域の先進的な活動をお話いただき、両議会ともに見識を深めました。研修後には意見交換会が実施され、お互いの取り組みなどを共有し、今後の議会活動に生かせる貴重な学びの場となりました。



2月17日

議会広報の勉強をしてきました

全国町村議会会館で広報クリニックが開催され、住民に分かりやすい情報発信のスキル向上を学びました。佐久穂町議会の広報誌を講師や他町村の広報担当者が読んで感想や指摘を受け、質問や課題の共有を通じてアドバイスを得ました。学んだ成果を今後の広報誌作成に活かして、議会への関心と開かれた議会を目指します。



◆ 編集後記 ◆

広報特別委員となり、一年が過ぎようとしています。

私たち新人議員は一般質問、委員会審査、議会報告会や意見交換会、視察研修に係る市町村との交流会など初めてづくしの一年で一年がこんなに短く感じたのは初めてです。

ほかの新人議員も私と同じ気持ちだと思いますが、二年目からは知らなかったは通用しないので、初心は忘れずに町民ファーストで全議員が力を合わせて町づくりをしていきたいと思えます。

その中でも一般質問は特に60分で質問と答弁を繰り返しますが、毎回時間が足りないと感じています。

先輩議員のようにまとめまで発言できるように精進して参ります。

一般質問といえば、「議員だより」の中では一番ページ数が多く割り当てられています、それは以前とは違い全議員が一般質問するからです、しかし、一人に割り当てられる文字数は決まりがあり60分の発言を文字に起こすと今回は私と執行側で約17000字、それを約1000字にまとめる事の大変さときたら毎回、頭を抱えながら町民の皆さんにわかりやすい文章でお伝えできるよう心がけています。少しでも多くのおみなさんに読んでいただけるように広報特別委員で切磋琢磨しながら「議員だより」をおとどけできれば幸いです。